

1. 評価告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075600108
法人名	医療法人 志成会 椿若宮医院
事業所名	グループホーム やまぶき
所在地	〒 822-0152 福岡県宮若市沼口976-1 TEL 0949-55-8855 FAX 0949-52-1772

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年8月18日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供項目より】(平成20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	10人, 非常勤 8人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000~40,000円	その他の経費(月額)	25,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200円	昼食 400円
	夕食	300円	おやつ 100円
1日あたり1,000円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

登録人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	4名	要支援2			
年齢	平均 88.8歳	最低	71歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	椿若宮医院 県立遠賀中間病院 蜂須賀病院 吉成歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームやまぶきは周囲に住宅や畑、林のある丘陵に位置する二ユニットのグループホームである。名称のやまぶきや樹木がホーム玄関に続く通路に植えられ、入居者や来訪者に安らぎを与えている。広い敷地内に母体医療法人、介護老人保健施設、デイケア、居宅介護支援事業等を展開し、法人の理念や方針を「志成会便り」で地域に発信している。法人理念に基き、個別的な支援、笑顔ある生活等をホーム理念に掲げ、入居者の状況に応じた支援を日々行っている。なかでも、パートナーを亡くし、急速に重度化した入居者の思いや困りごとを東京センター方式で拾い上げ、ミーティングや担当者会議で繰り返し話し合いながら「ここちよい暮らし」ができるようにとの支援で、すこしづつではあるが穏やかな暮らしができつつある。そして、入居者や家族の要望にこたえたいと、協力医療機関が母体医療機関であることから、医療・看護・介護が一体となった綿密な連携で、ターミナルケアを実践している。また、地域同業者で設立したGHみやわかで毎月情報交換や研修を行ったり、地域の福祉祭りに参加していることから、グループホームやまぶきとして地域との交流の足がかりを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ホーム理念に、「地域の方に助けていただきます」という項目を新たに加えている。東京センター方式のケアプラン研修会の参加や認知症実務者研修参加など職員の経験に応じた研修参加を支援している。地域での交流や認知症を理解してもらおう場の提供を課題として取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が個別に自己評価を行っており、職員は外部評価を、日々の振りかえりと今後の課題分析の機会と考え、全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議実施要領を整備し、市担当者、地域代表、入居者・家族、ホーム管理者等の参加で2ヶ月毎に開催している。外部評価結果やホーム行事、運営について報告し、参加者の意見を議事録に整備している。出された意見をホームの運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 法人が発行している「志成会便り」で法人代表のあいさつや職員紹介、行事案内などを行っている。ホームたよりでホームの行事や日々のエピソードを報告したり、家族来訪時に入居者の暮らしぶりや健康状態を報告している。医療機関受診状況は随時家族に連絡している。採用した職員はその都度家族に紹介している。日用品購入の預かり金は出納帳を整備し、家族の確認印がある。成年後見制度や地域権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に定期的に発行している法人の「志成会便り」で、大々的に催す秋祭りのご案内をしたり、法人事務長が近隣を戸別に訪問し祭りへの参加案内をしている。近隣のボランティアや民生員の訪問がある。ホーム独自の地域のかかわりは、まだ設けていないが、今後公民館を利用し認知症について研修をしたいと話している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程・契約書に地域密着型サービスの方針を明記し、法人独自の理念を事務所に入居者や家族等が見やすいように大きく掲示している。職員もホーム理念にそったケアを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日申し送り後、法人の理念を全職員で復唱している。理念に沿った介護計画を作成し、理念の具現化に務めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に発行している法人の「志成会便り」で、大々的に催す秋祭りのご案内をしたり、法人事務長が近隣を戸別に訪問し祭りへの参加案内をしている。近隣のボランティアや民生員の訪問がある。	○	法人全体で地域との交流に取り組まれています、運営推進会議で地区清掃活動、お宮の行事など入居者が参加できる行事について相談されてはいかががでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価をホームの今後のあり方を考える良い機会と捉えており、自己評価は意見を出し合いの内容を検討している。前回の外部評価結果に沿って、地域との交流をホーム理念に明記したり、職員の段階に沿った研修参加を支援している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、市担当者、地域代表、入居者・家族、ホーム管理者等の参加で2ヶ月毎に開催している。外部評価結果やホーム行事、運営について報告し、参加者の意見を議事録に整備している。出された意見はホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに入退去状況を報告している。市担当者に法人たよりを持参したり、地域同業者で設立したGHみやわかの勉強会に担当者が参加している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度の研修会に参加し、研修会内容を職員に周知している。成年後見制度や地域権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。現在、必要性を感じられる入居者の方がいないため説明は行っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人が発行している「志成会便り」で法人代表のあいさつや職員紹介、行事案内などを行っている。ホームたよりでホームの行事や日々のエピソードを報告したり、家族来訪時に入居者の暮らしぶりや健康状態を報告している。医療機関受診状況は随時家族に連絡している。採用した職員はその都度家族に紹介している。日用品購入の預かり金は出納帳を整備し、家族の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関及びホームの意見・苦情相談窓口を明記し、意見箱を設置している。家族会はないが、開設以来家族と一緒にクリスマス会を行ったり、ここ2年はユニット毎に家族の親睦会を開き、家族の要望や意見を伺っている。また、運営推進会議では家族が忌憚のない意見を述べている。出された意見等は法人全体で共有する体制づくりをしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動はなく、離職もほとんどない。新規採用職員は入居者や家族に紹介し、職員の能力に応じて入居者との馴染みの関係にも配慮し、遅出や夜勤などの業務に従事するようにしている。新規職員の歓迎会や忘年会で職員同士の連帯を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークや求人情報誌を活用している。雇用契約書を取り交わし、服務規程を整備している。職員の休息の場を確保し、利用者(家族を含む)暴力行為対応マニュアルを整備し、職員の権利擁護に務めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	法人全体で職業倫理の研修を行っているが、高齢者虐待防止についても同時に研修を行っている。運営規程、重要事項説明書に身体拘束を行わないことが明記されている。身体拘束防止マニュアルが作成されており、法人内で身体拘束防止委員会を設けている。やむを得ず身体拘束を行う場合の抑制許可願承諾書、カンファレンス用紙が整備されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日勤・夜勤業務等のマニュアルを整備し、新任職員研修に活用している。現任職員は研修計画に沿って、東京センター方式アセスメント研修会や認知症実践者研修に参加している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入し、研修会に参加している。また、地域同業者で設立したGHみやわかで地域の福祉まつりに参加したり、情報交換や研修をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人運営のディケアや居宅介護支援の利用者の入居は情報を得易いが、本人が納得できずに入居する場合は家族に付き添ってもらうなどの協力をお願いしている。地域包括支援センターからの紹介や小規模多機能居宅介護の利用から入居に至った利用者もいるが、円滑な生活を送っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者への敬意と仁愛を持って接することを明記したホーム理念を、日々の声かけや対応に具現化している。入居者の言動から人生の先輩として知識や知恵を学んだり癒されていることをホームたよりに記載している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式で生活暦・職歴、できることやできないこと、入居者自身の思い等を詳細にアセスメントし、週間計画に落とし込みをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の困りごとをセンター方式を活用し、行動を分析しチームで解決してケアに活かせるようにミーティングや担当者会議を繰り返し実施している。計画作成時は家族の意向は電話などで確認しており、計画同意の署名がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援記録に日々のケアを詳細に記録している。定期的な介護計画の見直しはあるが、入居者の状態の変化に応じた見直しをしていない。見直した介護計画は家族に説明し、同意を得ている。	○	入居者の状態変化時は医療、看護との連携が重要と考えます。現状に即した介護計画の変更で、職員が介護計画で共通理解し実践できるようにお願いしたい。変化に応じて変更する短期目標や援助内容を既存の介護計画に落とし込みをしてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人全体で秋祭り等の行事を行ったり、法人所有の車両で遠出をしたりしている。配偶者の葬儀に入居者と一緒に参列するなど個別に対応している。協力医療機関と連携し、入居者の重度化を防止するため専門医療機関受診を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関の主治医が定期的に診療を行っており、日常の経過から指示が受けられるように適宜連絡を取っている。毎週訪問歯科診療を受けたり、眼科、整形外科泌尿器科の受診には送迎を支援している。その他の専門医療機関の受診にはなるべく家族に付き添ってもらい説明を受けてもらうようにしている。現在、肺炎で熱発している入居者に協力医療機関と一体となって手厚いケアを提供している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応マニュアルを作成し、看取りを実践している。入居時に看取りに関する同意書を取り交わし、経過に応じて随時入居者や家族、主治医と話し合いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程が掲示され、契約書に個人情報の取り扱いについて明記し、入居者や家族の同意を得ている。倫理規程やホーム理念に入居者への礼節と仁愛を謳い、ゆったりとした穏やかな対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望する美容院利用を支援したり、近隣のお墓参りに同行している。入居者の希望や心身の状況に応じたリズムで食事、入浴等を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は母体法人の委託業者が配達しているが、野菜の皮むき等の下ごしらえや配膳前後のテーブル拭きをお願いしたりしている。職員は伴食はせず、入居者のペースに応じた見守りや食事介助をしている。そうめん流しで日ごろ食の進まない入居者にも食べる楽しみを支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土・日曜以外は希望があれば毎日でも入浴を支援している。ユニットによっては入浴がおっくうになってきた高齢の入居者もあり、声かけや誘導を工夫しながら、週2～3回の入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ビューティーヘルパーで理美容を支援したり、ボランティアの活用で歌や舞踊などを鑑賞して気晴らしができるようにしている。日々の暮らしでは体調に合わせて洗濯物をたたんだり、お絞りを巻いてもらうなど役目を担ってもらっている。園芸の日に、草木の剪定指導で腕前を披露できる場を作っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画に沿って外出や行事を行っている。定期的にお墓参りに同行することもある。近隣に商店がなく、また法人所有の車両は計画的な利用申請が必要なため、天候や体調に合わせて買い物に出かけたり、気分転換の外出が行いにくい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、チャイムで対応している。外出傾向のある入居者は動向を常に把握しているが、外出された場合は職員が同行し、見守りをしている。対応マニュアルを整備し、民生員の方々に理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する母体医療法人や介護保険施設、デイクアと火災対応マニュアルを作成している。地元消防団の協力を得て、年2回日中、夜間帯を想定した避難訓練をしている。消火器は設置されているが、食材は業者に納入を委託しているため、食材の備蓄はない。	○	運営推進会議を活用し、地域全体の水害、地震などの防災対策を話し合っはいかかでしょうか。地域の独居高齢者等にホームの機能を還元する事もありうると思われます。また、飲料水の備蓄の検討もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が栄養バランスやカロリーを考慮した献立を作成している。毎日の食事や水分摂取量を把握している。摂取量が少ない入居者には、好みの経口栄養剤や市販飲料水の摂取を支援しているが、経口摂取が全く出来ない入居者には、協力医療機関の看護師が主治医の指示で輸液を行っている。毎月一回、体重を測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの名称であるやまぶきや樹木が植えられた通路がホーム玄関に続き、玄関前のプランターには夏野菜が植えられている。玄関正面の事務所の両脇に各ユニットがある。ユニットの共有空間の対面式の厨房から、美味しそうな匂いやまな板の音、流しの水音が聞こえてくる。中央にテーブルと椅子、一角に畳みの間、周囲にソファがおかれ、食事や寛ぎの場になっている。共有空間の窓際に設置されたウッドデッキには洗濯物が干され、風に靡いている。ホーム周囲に樹木の植え込みがあり、夏の強い日差しを遮っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台、ベット、クローゼットが備え付けられている。トイレが設置された居室もある。入居者の好みや心身の状況で、和室と洋室を選択してもらっている。各居室には、入居者が持ち込んだ仏壇や家族写真が飾られ、居心地良く暮らせるような環境づくりがあり、居室で静かに過ごす入居者もいる。		